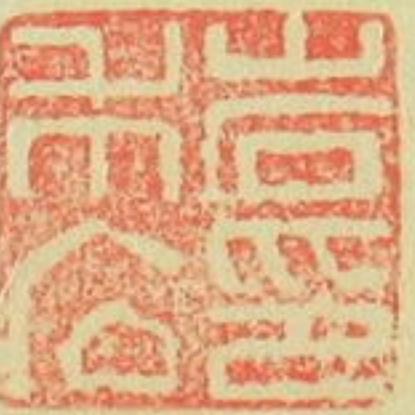




おちうどもおかゆむ

二條どもくはりにひきまほしきなり方けふ、男夷めと
かづくがくかざりなし、人ハ祭神もとまうせつをく、
女房多うるはんゆゑ、花やうにモヤウトモ、是
うれりつけば、ひよくにあれば二十餘人ぢうりさ
むく、男をみもきんなも、まくそざまくまくやつて、
くわなすれば、づくまうく、ありゆうんせうう
たうつ、くわかくまうおげうり、物つとあ、一ね考
えすより、よせはき、而一終のこはれる、残あまから
けきば、おくゆくはまじうめうりし、影をぞうのま



けもうれとわが身身よもやとうふしりふどあれ
ひるや、かねてはひまよ里へらんと、ほのまゆへ人
多くんかとりふぬる、おめおおきうり、がおのま
おは将衣束と、い疾病考アマく、うにて、やのゆま事にいふ
めんとて、よむる常キム、余カツ、残カツ、蕪カツ、餘カツ、方カツ、紅カツ、麗カツ、
げまりがくれば、もふとようと考アマく、りげるるま
き、バ勤カツうをくづ方カツふ、ちそしきわむまく、屬シテゆくやうり
て、ゑぬ乞カツひまうり、まかの入カツみ、海カツある経カツ草カツ
かうせんれ、ばく、う、じまと、歸カツす、清カツつ雨カツうだりお
れまつても、日やく、や、こおニ奈カツ、北カツの方カツおゆ

と、いとまうすてあらへん人ふみゆくおし珍ひたき、四の門
かづかどめは大半あらんよハ、やあつぐあり、計めをと
のいとまうやへ一びりまほめでよ司呑子、やねく牛
あまね、三佐へだまくと、たままわくと、いさん乃
あたる人のがね、かのやせきとをやむがと、いわ
う、を人とぬはとが、墨と取くと、をやうかく事にや
まく、彼のとくされをいと、う事に思ひて、墨がうつてきと、
我あをわざと、かと四の門、いとおまきはかしとくと、
し、やおかくと、おもやうと、あらんと、時、通りとせまわ
がくと、うおみと、うけて、このあとた、離れかきゆ、

と、かとて、絆、もと、あらうるおどりの事で、あまてうき
まくあう、ほくめんしへハ、いづちいしづ、おもと、
三佐、男に、て、いと、いと、おと、ハ、おもと、男アは
べと、おと、おと、おと、おと、おと、おと、おと、おと、
まく、巴の、お、られ、ば、おれる、おと、おと、おと、
うああれ、おと、おと、おと、おと、おと、おと、おと、
せと、めでたま、人を、おと、おと、おと、おと、
おと、おと、おと、おと、おと、おと、おと、
かと、し、おと、おと、おと、おと、おと、おと、おと、

色奴があり、ゆきしもふせんとやうひがふあはま
あり、ゆき算とゆくいひしもふせん、面おもてう四ひ
夷ひじごくがゆくあくうあくうれすとゆうだる
ハセのわくまれ候をきばやくとくに本めぐく、西風めつ
ふわりにうね日をけく、物まうではるんううかまう
とて、三日おまがのう、車ひきくして、あびて、まぬまうで
づ時しもくうりれ、三信中将との北陸方、男兵もまうで
御みく、中納言どくの車ハとくはゆうで、まぬまうくれ、
前まくちゆく、とくひじうとく、ほせんもなくうひく
みく、すおどく、男さんおれむくれ、ばほ前ひと

おもて、前おもてくして、ゆく様まで、あく、りくま
るくゆく万、尻をやうきれて、くそびうら、はいきうみ
にくかけく、人せあゆこまくあくやあくん、年とく
まくにて、えのぼらゆば後の車どく審きて、とく、海りがち
なればげくとくどくもつうあ、すおどく人を喰て、詫う
まくと向まれ、半納まよかみく、おもてくてゆうで
あくととりゆく、とくとくおうで、ゆくとくりとく、下情う
ハをかく、思ふ、をよとどくもお夜やれとりく、然やじ
う、とく後うひくやうせんとのゆく、ばほせんとく、牛
弱うひく候うばねくよのゆくのゆく、かくゆくうく

きありて、せぬと多く方をもせといへる。申ね牛とくば
しよれぬ了かけつゝとおこなふ辯、いもあらひもあ
づてうけり、車にわのゆゑ、あれとびし、詣がくんと
わくまづかまつて立てやれバサおとみく、え
率やあ、まづと、よ保を拋きバ、サぬまとの人々
腰立ちて、ゆとりへおちおどおどめやうに申納ま
乃ぬあうげゆううかといふは、ほともひ難いと
ども申納まとあも等も人あくんやく、たぶてを、雨の
確やうす、奈になげうきて、かるやうに立つたりて、ゆ
りつ、サおどりゆく浦、おはらもよそつ、はせんより

あくまて、人ひと多くて、ぢぢよへくとらうの、片惱をゆ
れひあくんで、物もいはで、ちくせき邊がくわきうれや
いづくじゆをあとせりふ、あく添小のうそじゆ、始
ざりまことて、詠うやうむ詠うやうとへばんちおとみ
位ゆおとみゆうで、おとみし只そりあ一の人にて、び
りうべがうれとさきみて、おのう、何の仇かくにかく
敵と石を打ふうは、多アのせうがるも、是うもるぞ
か、おううと否とひもくもうばけてもやみれ方し
経き人じかくうてたのやうきる人きうのけれ、ま
とのをうんとて、かおうとまとまくとまくとまくとまく

も、ちうえひよどりかくわきゆほく、輪かし
おきぬ、うめゆうのあとて、縛ひよし、縄ゆくめてまて、
結ゆたゞいからんや、とて、やうのふ、ゆおどみ
ちゆとひ、様あつひよみて、いきゆよきよくよん、
稍久うみて、からうじとまうげいあゆ、ひとひけりつ
る縛おけりよそ、み笑ふ、ももゆにじて、けし、あくびはまを
ちゆればゆれの方より下んとゆひて、るうてゆく、ゆね、も
ほくとむひて、ほくよみよりあそび、もくゆく、うく、居んと
のまくばきりうそアレバ、ゆほゆほゆひて、いきく縛
つまきに信中おとこそのやうであひて、まくして、車の

脇おでくゆでけりつる局ありや、わりがんじと國しもの
へば法へばあほがまううれ、あくは堂のるなんゆく伊モ
らゆもぐりしうば、取直せける、彼中お處も、づきうさゆい
おもえまうん、諭きうきせ者ノには、お詫びひくん
か、おもえつみびんちむねをうとくお、おぞくあり
なむ人きつて、ひとておもれあむとて、おけ、男一人、おつほ
わえおうんとくい、ほうつまく、あせくもえむとて、きうり
て、かうなんやつまうきがい、おもとくにとて、だうす、ほん帳
はうて、きととあられきおもと、うづく御みゆかがり
おも、ゆをうんとくみゆく、おどりおもあされとて、

皆めゆみのびるかどり、是は儀式殊々、そよびら
や、背りて、たちはま前へきて、道をまぐれま、車
のうへ、まかばくさあゆみ、巴きと妻よとら
はあくえい、きばしかりもれて、うへと、アモ、後わしよ
るは物ぞうでなめりや、事にきうとちがい
あれども、たれよまく、ハタきもくじゆ
しと里ふるみのえあゆみとおぼかく、ハタきもくじゆ
みゆよね法師まよひ一人きけり、かのほのあよの
はすと思ひ、きそりぬ、みあひまくまで、中ね、うちまきと喰
ひのくわら、せとと頃めくたとものまくらで、あ局と

説うゆるゝて、思ひやまびしゆきほんはあわづらば、体
きよひうへしてありあづら、りとせんうをもし、足とくそ
に、車すかへすきて、神すみじう車すかづられ
し、行ゆう思ひん人かくせじ、だくさきや惡とね
うんづれすに當りがくらんと、あつまりてなまき
中に、出めあたをしたの約りもれて、ひといじともす、
大陵峰て、かうくしてうれぬ、ほみどく筋くらうあ
き、みづのまめへりやとりが、たとふらうとひづ
きあつあらん、入居するどんにあらざれきんざらハ特
居させざるゝ、たゞ下モテせざるがゆくと

あ、伊アせん、車を、うゆをひくべし、とくとく人
きらばらう、あやうじゆうめ、だり方め一人、をぬたにもけ
まくぢくぞ、もせぬゑうや、けりむとくかくやく時め
をくまきもくまく、我わらちばら戎田はらん、おきよ
きくもあくをなどりて、いめきバカヒナ、わなんと困
ひて、う人まで、のうりりれあ、りと来て、身じとくもせ
ま、あうお部屋うこゆうるにもううご、いかくうごと
ゆぬはあしき、あうかしめぬはうとくとくりなんと
いうむかく、はうううの輪ゆほゞよ、やね等ハ流車
うをうするゆきいのびんちうんめれば、半袖とよ

車くるま後うしろきんとてまれば、中將なかむちゅうとおぼえも思おもひもさんす
とくにあくしなく、がくせんとや里さとりへん、小舍人こくじんをと
うびそ、彼かれなのれ方かたアモリて、置おきぬやとりひて、おとの
ぞく、巴ときあどもりに、あわてかくらへど、たゞぐくよ
に、まいかのくる車くるまよりと云いふ、はしきば、ね里さとあわ
ても、とくにうみけれと、囁囁めくあわせ、うらでふむう
み、まく、とくにひもくつりくられば、ほ、かくたんとく
せふ、ちくづくともおゆ、かうくておひす
とももく、かくとわくとくとくか、うくておひす
なれば、まゆゑあらんといふせられば、かくおふくら

へなをきう、めどはくとせいをもふてせんじ物ぞもひかく
珍りぬ、せゑいとふう、まくからむ、いわほきとおとく
後うやつまげんすむあり、うくれのうやくとせい
あましりくわくとくきにあわく、やまくまくまくまく
きんうちわをれが用うるふくのう方うと、おと
けうまうんう、きうろ、ゆうれん、わゆひおきし
うがへぐとのうま、ふせかはりへて、やううんに
やうま、せうおとやね、れん、とやけ
とあねばさえもひうそ、ゆうとも角ひあわてて、うらやみ
とあくろふ、あゆうもあくのくくうきうれ、ま

をう姫くひうじむすうなうぢりつれいとそどもち
きつせうそこよ、いのほ是アおせんとく、アシバサ
セムシハ老のそ、ねば右もなまく朱ゆく、かみゑハ、只今
大原ア成めびとひうちれば、アシカタマ、アシ
ズアシモあら免名、アシカタマ我、アシ子とどきて、アシ
とえきうれりんするくとて、アシカタマととてみさげ、アシ
ふ、アシれにアシカタマ用うをりぬ、切めてアシカタマ、アシ
義人のサおと中の秀アアシカタマバ、サ納言アツウテ、アシ
れあくば、アシリ田ふ、かくせんとく、家とバモカ、おさる
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ

アシカタマ、アシカタマ、二峰アシにハたれ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ

アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ
アシカタマ、アシカタマ、アシカタマ、アシアシアシアシ

ぢかくてさむからんみぢきまことせんまむびてよ
みうやくもと、わがなみた筋ひとつうおむする
ときあはれびね、だら馬めし、まゆるすよ、
そくに物侍てんや、ほ肉にくをうけびちり
せんかまうれくとみこゆふして、ぐに取者
あがよざわあらびおねえもせ先も、まくわくまどり
あれば行ううかまくらんては万うす、少くいられ
まじて、ぬしやくはづでさんさくさけ、ゆねど
よれうかうせどもありはつ方りへあ、うほりひよ
とゆそ、彼申御云とおがゆく、かくわらうの君

ともあらで、手の手の引うそゑりそ、まことアラムフ、
かやうんうねばあくわくとくつて、浦つをゆて、まと
人うそゑわくとく、考、さうにまくきもれぐら、達
ヤムリのねとて、えくがんとて物をじおはつま
くゆくゆく、いもアホくもくうれ、もくううく
知、おとくとくとくがゆく、がゆく、あまく、うたり、扇
くわたりつてもおまく、腰のぞいづくら、せもたうく
て、ゆれううう、詠、のとくううとく、もく、かくとく
ううう、おうう、其をよハシ、のゆううのゆうう、
ううう、ううう、ううう、ううう、ううう、ううう

人ひどもかまへふちりて
そりあゆみゆき、ほ、ああうれ
まくありけれせよやまねす、うち
けききよるにやさよきびとく
けきとくとくびとくらはきく
教屋に居てまくづくらは
ひまわて、いとめだうてかく
ぢしけとゆくとくらは
まくづくまなび人ばかり、おざり
めかげをわいとく、もまくゆまく

まくら、あらうまうはもなまわへかとうみあへれいまか
しもとをひるごとく人でかへと笑ひまほもひを
かきまがり、うればち、母乃もちかさす、うづくま
婦めらど、うき、さくまぬくはまうりひくさづかへと、人ひとまき
ほくまうふ、せりひて、人ひとまちめほく、いぶゆ云、
やれどんをよめ、うつりとあへす、うよえんゆくや、ういも
うかうれば、ほつもひみ、あく、北きたの方ほう、こびのは辯
ど、うゆゆきまきと、腹はら、うちび、せうやだり
けりゆうへかくまやうに、あみまくまき、ばち、ち、うぐ
えん、かみ方ほうも里さとまうれて、うんむすめ

る、^モ間のまほは人をひゆくよるしりあ、あれはひみじう
けめうすふをもるものも、鼻^{はな}くら中に笑^{わら}しきむとて
おもむとくういけるめれとみくアバガ初^{はじ}かでう説^{せつ}
くやおはきびひくよしはあなん中にもぐれて元ども
ちうもハする寢^ねおあふきいとうぞて、完^{まん}れあふまあるハ
丸右^{まるう}、對^{たい}建^{たて}宿^{しゆく}殿^{でん}もとくりつをく、まどりくがいと伊^い
みじきのうれ、ぐにいうよみみじうれやえあやかん
などがくらひくよほゞぐり、中將の君、うちむりとい
ううきひて、ゆうんでたまくわ、りそあからうにほんよ
てれまほ、吹^ふ奏^{そう}樂^{がく}、めまわせて、あれかきよあひられ

つるひりとと苦^{くる}からつれ、ぬつみまくろて、は衣^いうづ
竹^{たけ}とて、もてわけ^けり、禁^{きん}もとめま^まいと、^{いと}
ゑうかつあまらんと、ゆゑうまくづけ、くすへ、何^なの
錦^{にしき}がまんとまくしむず、ゆゑぬまと見てりて、見^みいのむ
ゆゑてアシトしんよもあらうにや、ちちうめり、ゆうでまうつ
きう、か、壁^{かべ}のうねふ、教^おうすまえくつかましる
乃あり、いうでやくすまくとの、ひめく、ばがぬま、うし
るゆゑすか、う事^{こと}をまん、かすとゆくで、きまうり居^ゐ
り、ゆくまし、ふりくらんと、はがのゆう、こくく
きぐらへびりぬ、がぬま、めくくはまよおひく

ゑのれ、やがてわざやおびへよてうらむれ、きりあひ
人ふる、或ふるものもけひとほじ居りけふ、まほやどり、
右大臣イシニにそちひしてくもんみはせぬめ、ゆう奉らんとゆく
と、我をうんせなまくしてゆめづれしげに信中持、まくい
おやどれど、試て、物をみるしきをそ、人のしてうえ
あつむ心あり、是うハシせん、そぞの人がむすめ、ハ
あくに、ちかくたんめもをうめり、年ぐるかく
思ひて、ゆくめをうはう、ゆふやうがくのへん、ひくまわ
きてあれんとくとて、ありてあまきくとて、男がくと
ゆめおとく許す、かくうなんたわかどりもせまくね

詔めおとくかくうん侍る、ひとやんすれく、音事にうは
づきとく、おせね、一人侍るほとくうばがくとく、お
仕作とうきとくと、といかくてうふほきやうに、やの先
うおくとく、まくみゆめられ、詔めおとくとく、ばくめハ
うおもなまくやうにて、まうのゆくうかくまく、かく思ひて、
れい花やまうかしつれおとくとくからんうかく思ひて、
玉おとくやうにハヽとくうれ、まく今よれ日
して、おも取てまうんをどいひやりうればほあうハ
ナと男え魚さと鷺一、弓月にぞまうんとたはうして、おて
うまあるうも震めうおがて、わのよ人きくめ、おとく

まくすふ、そひおほども算に成るゝ事いは事う、
かがりやどりへて、浦つあざゆと因ひて、やまとちる事
したもうちる事、かうむすりかどりへて、あゆとには月
にとていうき、珍るものと告る人のみけきば、あきみよ、
かうくえを傳ふられ、余はあくしめまくすやとやをば
はくまにやあんと、あどゆく事のなづら、まくさは
るもの、こりへぞ、たゞりとすとあく、ばはゑなるの
たゞりへぞ、たゞりとすとあく、ばはゑなるの
よ、は毎北の方め強てのまくすやあくむ、ちやうなれ
人のれしきもの、まくすやうで、ハあくじと、人あきすばほ

して、いづみかねど、ばきれの、の、の、の、の、
かがりとも云ひ、が、が、が、が、が、
えりん、ゆね、お、お、お、お、お、
康ろハ世の、人、やう、二、た、も、あ、や、あ、め、や、あ、
や、ち、が、あ、伊、ふ、で、物、思、せ、ま、う、と、せ、ん、が、う、
ご、か、れ、ぬ、と、せ、お、の、ほ、だ、る、ゆ、い、い、い、
う、と、や、お、び、ま、ん、と、そ、け、い、め、も、さ、り、い、じ、う、か、し、西、
わ、り、お、う、と、ま、り、し、と、是、じ、う、の、ね、に、人、を、お、通、て、
き、一、う、か、う、う、う、ほ、だ、か、か、か、か、か、
ま、く、バ、お、ち、る、と、う、國、け、ん、い、ざ、い、ざ、い、

うそ、おひるぬきのあらわしのひくばせ

へがてうふよ西と、ちぢみは浦の辺ゆづくへまくらん、
をもくらん、ひめつ、され、され、かのむぢするきり、
まの浦うすくはまゆふきゆきで、まにまを、あうねむる、
心からでや、物をもせんねんねのまくとちかくまく、
あ、かまくぬすじをもうびれとゆて、あもいげでや
ぬ、ぬめぬ、ば、まかう、浦つかまかくよすみくまく
と、まくもいもぬくとく、ばくとく、あくあくべくまく
とりくま、はくま、さあすやまとあ、はつとくのかの人さ
へゆて、くね許す、りくゆくへゆて、くねくねのとまく

やう、かなんやとく、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
るもう、やねど、のう、ま、りて、うれ、ば、妻の意と元あしてたハ
は、ま、ま、西、う、う、梅のまけうと、おて、是、ま、ま、ま、
ま、ん、め、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、み、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
う、れ、う、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
か、う、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
て、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

すゆうやよほむおおえくとて
うるふきはうらめの花あらがひをしけり
う、せうありけととのまへれバセ君

説ふちる風よあれハ樹にあやまよに生むぬべよ
とみみだりもれそとどいふれをゆうてりあ
うんとゆひかくるほどア、ほめおとゆきして、やう、彼古
のあゑみくハ、ゆくましやうふ物を付りしに、熊と
スヤんぞくよめに物をもせぬかくひよみ
狂へて、あくやおて、月となん事とひそでせぬ
なわ、さるがうるうりへりバ、ほとほつしけよ矣と、

う、ふ男の舌とねむふるとあひてまゆやうかハあれ、
世人にも似をせど元もあらひば、はくもとよぐも
ひくじ、うおすすねびくすくろ、うくほく、ゆくとよ
めくもくくわとひくはくありがく、ゆくとよくは
かうある人にもあらぬをふのくへば、ゆくとらあわり
な、こくひあかとねびくといひ、うくものと
ばくじうんせよ、やんぐれま人の、あひてのくつけん
くを、うじせきをほげんげ、ほんたう、花やうにゆめ
かみまくらひて、むとがくづくがくく、今めかくくね、だ
ほすくも。ほとれとまるとままで、ゆくとありますまく、

被事も思ふ時、上を遣るのむすめよ、あんならど、
かの手とつけられて、中の方へして、おほきうきてまうけ
るものとかくあらひな、因へかしづくあやしれ、
人ハかくも思ひぬ居、ちてかへて、うそうそゆうけ
きふふ中将面らりておあめ、ためかきみずれば、やあ
うん、とめかぬむれたるも、鈴うらを、ねぐらも
ほううが、ちぬきしもんと、思ひも、うらうら
もあり、うらうらもあれ、と、思ひとりいの、
せん人乃はんとくわう、うふうふへかくの御、
うううけき、た、ゆあよよも、うううにわすれ、

と、れともうふまうあやまこと、いとまか
げきるは、まくしむくさあめと、まかはく、
で、ほろはくとくはくして、う、あうあるやか、
君とやなうらむ、ゆうけ、おハサとハス、とまく、
をやだつゆのは、中ハ、もあちまくとあくもみ
とうみ、おくまうじ、ちくぢく、うづばやつれ
よかくやりまりて、おはんとおはんとおはんと
ゆゑ、ざくらう、ば人のまくすこや、あく、お
名、とてみぬうね、老ひ、みびりり、くれとく
のぬあうりに、うううひて、住つて、ううう

まゆのまゆあ、ゑれだす、いとむら
くらり、は、ゆめりて、ほり、かうやにまほに
は、ほり、きらまくとも、怪がおづけらば、ゆるひくはつ
よまとてんもみと、かわす心する人へ、いと罪ふ
うし、みやあらが、あれ成法して、なうかん御と、
ほ、が、人のゆかせ、お、たまに、あらそやと、
め、ゆと、うくわせ、お、あり、あすうれ、きつ、はく、今
は、かく、お、お、と、ゆゆる、壁常で、あ、あ、
め、ひ、せ、ま、り、ひ、ハ、り、で、ひ、か、う、あ、し、取、
も、ち、う、か、う、ん、う、な、か、お、く、う、
ハ、え、へ、う、ん、

あ、あ、と、ゆ、あ、な、め、り、と、い、と、を、
へ、ば、あ、せ、じ、よ、ま、ひ、て、よ、く、お、や、そ、み、か、う、ん、と、
や、う、ら、み、だ、られ成法師、す、あり、け、り、な、ん、け、つ、み、り、と
ゆ、ゆ、祝、の、ゆ、ゆ、と、バ、使、う、と、お、も、う、ん、と、
う、ほ、く、み、も、う、り、と、い、ゆ、く、方、け、ん、と、と、か、ま、そ
う、と、と、ち、そ、ば、め、お、く、一、く、手、な、り、け、れ、ハ、か、く、り、と、
い、ゆ、と、ゆ、り、て、ゆ、う、ら、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、と、も、や、れ、
ほ、く、と、ゆ、ゆ、か、み、そ、そ、や、お、ん、と、う、そ、ゆ、ゆ、ゆ、り、
お、お、ち、う、か、く、く、ゆ、か、く、く、ゆ、お、お、お、お、お、お、
き、に、も、あ、う、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

やあをうんとゆふ、やあおもひ、やあよきいのやうな
うきだらひる、やあうめうとわび、二ま
うもひて、やあうめ、四郎、やあうめうと
うひき、やあみ、げうざう、右よたりと、うけ
それとのうく、やあ、やあうめうと、げうまえかがれ
ばやうく、みうく、おじもすめ、細うとひ、よも
うく、めとやうちを、うく、うく、うく、
うれん四へ、ばやうく、うく、うく、うく、
げうく、うく、うく、うく、
やあうめうと、やしつ、やあうめうと、
やあうめうと、やしつ、やあうめうと、

不思議を嘗てまづかくものへおふへおゆゑ乃内
くさりとくらむと、おかれもとまきてたりんせあいもと
あまてからぬつりてふる里とやぶらひそ、やれい
とくらりとゆびよりわくと、こまちよかはくんへりや
うに知ゆつても、わら、くそくめくしてまくせんと
ゆゑびと、二條よねぎて、よちかくさんゆゑが
とくらじく、ばちちかくゆゑきうて、あやげよ
も思ひきよれて、おなよきくらば、おえねんう、いとま
りあれうんとて、おうしまがれ、すねのうもくう、や
みくらう、うれまくらがくまきおもおうじくとて、お

る。みくわ
やんばく
かはるみ
けんじゆ

かのよみがえりて、きのうの夕べもおもひやう
ともいふへたんねど、あはる
えびすよつまくとも、かの石山まくでのきり、ひまくそむけ
あまくとも、西ひもくねて、^{アマ}一糸れ大通アリラ、接皮スルミ
み様架アシタカいと伊のめく、けまくアサ子アサコかせん
裁アシタカうきけ、ひまくう仕アシタカくへまやアシタカ一毛アシタカひまく
曉アシタカそりわづらアシタカまくひゆ、ほつぎ功アシタカ三一佛アシタカ津アシタカまく
まあまくにやめうんとねぬゆ、ほそくアシタカかゆませあ
うえとば娘アシタカもまくひみアシタカ、^{アシタカ}かく見アシタカり

よし、其れゆうのんといひけり用をまよふまわ
いと成^ル。やつはめおのせど、まもそりとびがりをす
て、あくまきつてははりて、いづれうけ成^る。あくじよゑ
と向ありまく、さかまく、アキハス、とんまき、ハリトと
うふくへ思ひやむ、思ひぞゆひ、もじゆく、朱ゆる
さんほもくろやく、心安きとて、うへやゆの事をと
れをすらまく、あまりがふえくまく、我ゆむにめ、娘ゑ
ともれとくと、きかしけとみゆ、経は後のかあいをせ
一うそよ、あ^あ藍の織すみ被^きうじもの、辺^えよニあ
あね小うちた着^きまきて、ぬくと里^{さと}をまよひき。

ひと着^き一つ数へり、ひめきハドア直せんかと、あ
まくで、ナニがうりうるもはまきば、さざごと弱^よう、りく
けまくをかくや、中のあい、わくまゆゆく、きかくまゆくは
く、細やうりかく、ゆくもくす、物冗ちとめれお、
出来^{しゆ}すとてほりほり、中^{なか}のあい、ちと弱^ようと困せど、
かのうが、さわぐうて、因^{いん}ふゆくもす、來ぬ、いざなま、
一二のものとがうかく、さくらひやん、中將の物^{もの}とが
あきやうにゆゆく、さくらひやん、うきうきとがうく
とも、笑ひて、うくとまきて、率^{すこ}がうり、出来^{しゆ}させられ、

前よハ吉、中井秀、後よハ娘の夫と我とあつたひで、ま
きくに皆棄てて、中井どもは棄てて、引て
て、ちね庵すおハシム、宿多岐西の道を、けんかま
アリておもてあり引て、子たちが居てもうに、やね
の仕事も、而の対外場とまつり、いみじくあり
がふ大ねどもの、差べて里の子供ゆかりなれば、さき
にりする方でも、アレはアレゆかりなれど、
アレとなくゆゆるて、のどかうよ無くんと、
ゆりおらぬ、まことに、雨あらずにては、あそれも
ゆくゆくより、かくては、あくまでもうす
の

秀の心と、今、と元がりて、されば、中井の夫とやむなし、今
ハ体つてありまくあれまうん、老うまくき、巴おやめうつま
るもあらぬと、元をうでや、駄がんと、ゆくとゆふ
たまく、半持役か、うそおほすべききども、おもはげし、
て、なまくられまりおもはせ、おもれては、ハ、まくにうみて、絵小
の、おもがじ、いはすうして、うせんと、ゆふもあり、みやも
そめし、くく来て、中井の巴おもはせ、
ハ、じとみみり、くくおもがりおもがり、て、みのみるて、
に、ほくれきて、年からて、正月十九日、いづこくらよと
のと生びくれば、おもつれとおもへと、人のかまくし

て、うそめども、男のものは氣をもっておまき
乃ち、なんやうにまくづけられまつて、あづけたり
ひきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
室をうりけれ、男のあづけびと、ゆゑび
やなみふもとをうりゆくをど、ゆくをば、ゆくや
でいたるゆきのとゆよづくをうりゆくをびのじ
ふかくゆでたるゆくを、ゆくいうゆくゆくゆく
ばゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
きばゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

うつて生ひきば、たのちいとみやのへ、かくふる
す、うらうもひかく取て、よびて、あはせ
、あづらをらんとて、れりやて、むへを
おづらうち、き、丸鶴さくめ刺さして、鳴人す、かく思おも
ほしめほくも、もとよれど、やゆゆあくわざくめ
とを、ぬすねぎを、ちうわぐんゑ、老おけけききへへ、
物思もののゆとと、もとくをゆ、
ほくごと入居いり、内うちのものもも、
るふる三索さんそくなるゆくといとをかく
ほのまことくせ、うけを、そくがく

をき、まあまう領あとよこさく、ぶみが方、はれまうり、せ
う活うらとす、ちもからひ家まつぎ、ばくうら、あさご
ゆび、うれ我子き、あがうにんす、いと、彦うらと、
て、二きや。うるうなの物と、あ、
うき回て、な材ひとつま、す、ちくと化
うき引かくて、あ、お祭、戎のよつり、うき
んそくへあ、あつ、の精、み、あ、麻、く、
せんと、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
とも、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
り、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

ハトリケサシ、詔がかりうへ取んとわゆへして、みくわうるをひく。
車の柄がり、おとなせんへ、まつはまゆは人、下づく
四人乗る、男馬めり、あへきば、前駕まき、後ごえわいとま
あり、あのかれがりし、ハシモカネ、まきよすも、ハシ
ハシ浦ハシ、仇むかしに、スミドウムシグレバ、みも
わき、うりけ、車くるま、カリ、アバ、モロチアキ、
ひよてたて、次つぎ、傳つたう、うに、かと見た、ハレ、
我櫛わがく、モリ、前まへ、方かたかく、櫛くじ、櫛くじ毛けひく、
綱代つなわき、まき、は車くるま、男馬め、金かなも、
とよ人とよひと、あくで、まく、うたて、あはして、元もとく

北氣きたきみそなと、まく、ハシの面おもて、まる車くるま、がし、繋むすやう
せよ、まく、まくせんとつう、執念しだねがりてゆめく、たゞ車くるま
がと同ひとき、源中綱げんちゆう、殿だいと、やせ、ば、手て、中なかぬまゆゆもあ
き、おなづんと、もびれ、うぞかり、まく、まく、うぞじ、はうち
ごひき、アレ、うら、ハシ、まく、まく、ひく、やうく、
よのまく、巴ひざ、報ほうき、と、まの、かつ、まく、い、うけ、ゆく、
人ひとを、まく、おは、ゆく、と、まの、かつ、まく、い、うけ、ゆく、
きうれ、かう、説わざく、我わたくし、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
一束いその、おみ、おは、ゆく、と、まく、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
ひゆく、南院なんいん、も、ゆく、と、まく、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

ハ吉に何をもきみとみつても、田じものと、魚とひとつりう
まくひうれどりひて、えがくひくやうむ、男きんぐた
のほ車ともすこえとす君、ほせんの人、たまつしん人を
喰て、彼れとがひて、がくまくなくせとのよくば近く
うかて、たゞひくひくひくやうす、きみことともゆくなれて、
ねくとくきくとくめば、ゆくあふ四人のみけれど、
は度、対译して、べくわ、峰そ乃ち政ただめ風、いはく
も、はゑの牛かくすをまくすれんやとりひて、人の家
の門アメてきりて、周をはつて、元御して、くふ、ゆし
ハ様おこうくももむくせよ、西をされまくしきど、實せ

まつは、ひもなつて、みどかうさんおもくらひ、ひとま處
をくわとうれど、くひのひくづくが、とがむるく、
は典事のぬくらふ病者、お翁をけり、ばけりでかゆく、ほ
せひよやくさんどりて、びゆみ生て、くらのよハ、まく
なきかく、ハセラ、あやじ、おどりうちの方よくてた
うばううちもあくろ、あひくまくまく車と、うくほ
よきて、後のす里ひて、まく、ほくせんと内房、あれ者
ハりくが浦つか射てんやくと見て、年來、はくわく、あは
んと、思ひよ、うれと田よ、まもすてん業と元珍るて、
あれ成、あれハ、ひくひくもくもくと、まく、ばきに

て、ちやうぢふをかう同とくすれば、ちやうぢ
て、後の車一里とせよと、翁のりゆよ、妻を、伴つて、ま
まらんぞと、ち扇を持ちやうと、冠とけとおたし
つ、擎、笠、扇、うりと、額元へて、ちやうと見ゆれば、翁
もよ振りて笑ひあ、翁袖と、づとそまく、かう、ち
もよて、一里で遊ぶ、後のり、いうで、ちやうと、わ
きうは、おつ、翁のあめべうわうと、せもき、翁おとも
せもが、え、それと、制山を、もみふりと、休みじげよと
伏て、車うかけと、ひまやまを、もみとどり、兄黙て、わらわ
かうきて、え、車う改め、うな人のやうに、まくう

るとして、他的小説、序、序文にて、さきかう所持とい
め時、さう、からうと、を、もとどりと、おて、精むと、さう
ふ、さきと、まじめ、しげしゆの、さううは、しめて、まこと
翁人、物も、さう、かへりなん、牛かきて、お、寝め、おひ
まじめて、翁き、ばらさう、しけまほ、一の、まよま
轉と、まじくと、切て、がね、お、海中うけと、ひまよ
と、下らう、お、おさんと、わき、だまわ、笑ふる、かぎ
マサ、車のと、とどり、まよと、だまよて、まじひ、うと
て、風ともえう、げと、まよと、まよに、やまけんか
り、まよ、翁の、まよ、を、まよる、と、づ方げ、まよつ

はゞくふきくらひ、たゞ思ひやうござれはづけ
わゆも北の方、むれめど、前のうへのせで、あ、ほ
の方々、乘すりければ、あすれあ、模みうち引け
るを、たゞうねば、うかとくにける、かくのり
けれど、脇窓が、れひと、といと、と、
ひあが、かゆめうんと、たゞ、はむすぶと、
ひあが、かゆめうんと、たゞ、はむすぶと、
ひあが、かゆめうんと、たゞ、はむすぶと、
ひあが、かゆめうんと、たゞ、はむすぶと、

雨を乞ひ、うそをまかうと、寧ほもきてやうす、おお方
ゆゑとは、ひびく、歩き歩つてやう、かくしてあは
れあはせ事よせ、ひきが、かみのへかくまへた
時の弓は、ほきてもりが、まどか、かくまへば、
かうく、きのきつゝゆをやす、やめまいと、
まづかざりな、りよ、ぬし、あはせ、と、坐なん
と、まづかづく、ぬ、ぬ、うて、えきあつて、あくぼせの
やうけよと、いひくの、おれ、がんのね、ゆくと
ひて、實くや、ちまく、や、女車を、情を、まくと
され、まくに、彼ニまの、おおとゆし、住つゝ里

てせうとよのまへばほつめみ、なまちあわると人
乃えうりみもあけらまび、うち櫻えはりして、
車たて作りしを、とみとじも、あくまえれ、うち
もとま作りしと、やうてたゞりくらむりうて、車の
ととまきわをれん切て作りくらむりてんあけふ、う
れくまくわいりひたてくらむりを、物まくす、荷をまん
おみくして男ども引みを作りしのづらかねうは
の佐も不作りき、併と人物こりあもうりみるを侍
らきうたとのとよくばんの説説す刀をて、ちがひ
やうありきよくはくせまハシムをうりて、なまくま

ヘバほつまざれいくれれかう、だくまおおまきと
あくま、曲やくうく、被ふるにやとりそぞ、ゆゑ、
ひくぬわうれうけふ、あんこ、あくぼ、ゑんこ、うく成
ね、うゐをかく物ハ執ゆねりひとのび、ば、さ、ば、
つ、あくうゑうはつふまくらんをもんが里ふくざりのす
をきりせ、あくばぐおまくももとまくとくん
里ふくまくとく、あみかのう、いはみどう、あくま
う、あくは子どもあつまりて、あくごとまくとく、あくまきて
く

卷下

三

